

音楽研究部研究主題

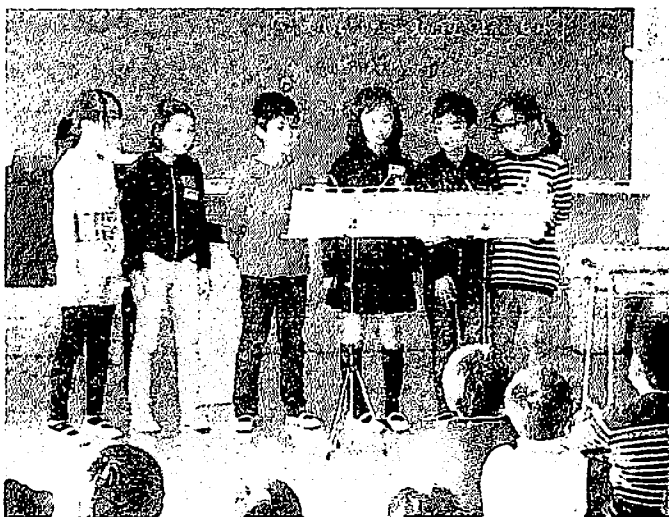
音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう

～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、

音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

研究副主題

「楽曲の魅力を見つける喜び、みんなと合わせる楽しさを感じられる授業をめざして」



第五部会

目次

- 1 研究主題 . . . p 1
- 2 研究副主題 . . . p 1
- 3 副主題設定の理由
 - (1) 学習指導要領とのかかわり . . . p 1
 - (2) 児童の実態 . . . p 2
- 4 研究仮説と実践方法
 - (1) 仮説について . . . p 3
 - (2) 具体的な実践方法 . . . p 4
- 5 検証
 - 検証授業① せんりつと音色「森の子もり歌」 . . . p 6
 - 検証授業② 日本や世界の歌を聴いたり歌ったりして親しもう「雪のおどり」
. . . p 9
 - 検証授業③ 聴き合いながら楽しく歌おう「プパポ」 . . . p 12
- 6 研究の成果と課題 . . . p 14

1 研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、
音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

2 研究副主題

「楽曲の魅力を見つける喜び、みんなと合わせる楽しさを感じられる授業をめざして」

3 副主題設定の理由

(1) 学習指導要領とのかかわり

平成30年度より新学習指導要領への移行期間となっており、来年度からは完全実施となる。新学習指導要領での音楽科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。」とある。まさに今回の研究主題は、音楽的な見方・考え方を働かせ、音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するという新学習指導要領の目標を受けて設定されたものであると考える。

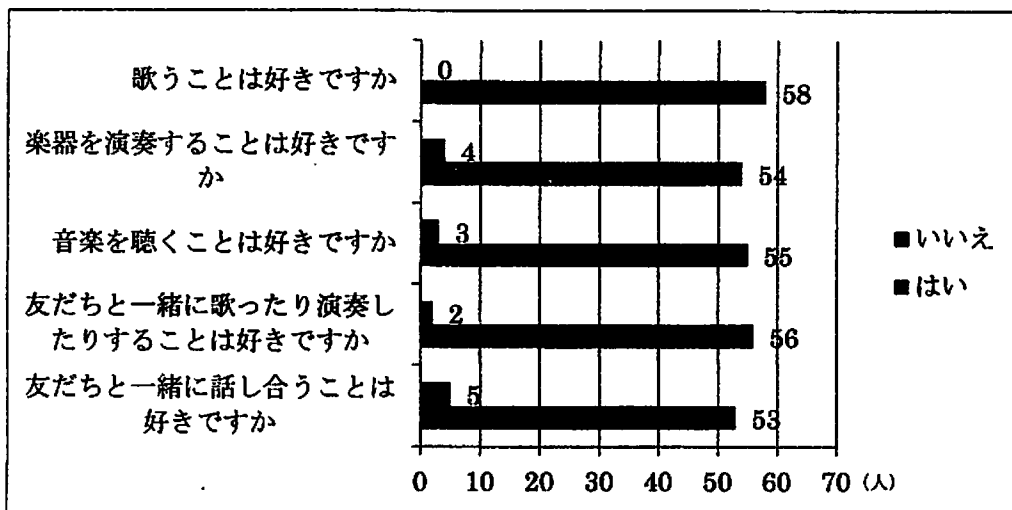
副主題の「楽曲の魅力を見つける喜び」は、音楽表現をする上で、対象となる音楽がどのようにできているかを捉え、それを音楽表現に生かそうとすることを目指している。音楽を形づくっている要素である、ア音楽を特徴付けている要素 イ音楽の仕組みの関わり合いを「楽曲の魅力」として、児童がそれに気付いたり感じ取ったりする学習を重ねていきたい。音楽の構成や仕組みを楽譜の中に見つけることで、児童の音楽表現への思いが生まれ意図と結びつき、音楽や言葉で表現する喜びへとつながっていくと考える。児童が、楽譜から楽曲のよさや面白さに気付くやすくなるための手立てを考えていきたい。

また、「みんなと合わせる楽しさを感じられる」とは、特に歌唱活動において、音程感覚や和音感覚を高めることで、歌い合わせるときの響きの美しさを共有し、協働することの楽しさを感じやすくなるのではないかと考えた。児童が抱いた楽曲に対する思いや意図を音楽で表現する際には、それを実現するための技能が必要となる。音程の間隔を図や手で表したり、和音の響きを体験したり、常時的且つ継続的な活動に取り組み、その効果を探りたいと考えた。

(2) 児童の実態

本校は、四街道市と千葉市の市境に位置し、住宅地の中にある。各学年2学級ずつと特別支援学級2学級の合計14学級の中規模校である。学校教育目標として『考える子・心豊かな子・強い子』の育成を掲げ、目指す児童像を①よく考える子ども②心身ともに健康な子ども③思いやりのある子ども④感性豊かな子どもとしている。また、小中一貫教育に重点的に取り組んでおり、本校からほとんどの児童が進学する旭中学校の教育目標に則り、挨拶や歌声、黙働清掃、学習規律の定着などに力を入れてきた。本校でもその成果が少しずつ表れ、行事での合唱にも一生懸命に取り組む様子が見られるようになった。

本研究を進めるにあたり、対象学級に事前アンケートを行った。(資料編 音楽科事前アンケート参照) その結果から以下のような児童の実態がみえる。(平成30年度3年生58名に実施)



音楽への関心はとても高く、特に歌うことは全員が好んでいる。しかし、児童の様子からは、友達や他パートの歌声を聴いて、声の音色を合わせようとしたり、全体で美しいハーモニーを作り出そうとしたりということは意識できていない。また、他の活動については苦手と感じている児童が数名いる。

音高感覚に関しては、ドレミファソラシドの並びを問う項目では1名以外が正答し、レとシの音高を比べる項目では全員が正答している。音高についての知識はほぼ身につけていると言えるだろう。しかし、五線上から階名を読む項目では、以下の結果のように約半数が読めていない。



両方正答	2名
シのみ正答	0名
ファのみ正答	13名
両方誤答	13名

楽譜からの読み取りについては、八分音符や八分休符がたくさん使われている、四分休符が少ない、プレスがあるなど、細かい部分に目がいく傾向が見られた。反面、旋律の流れや歌詞についてなど、楽曲全体の特徴にはほとんど気付いていない。

× 蟲の子もり歌 ×

1 ビラ ロ ル ラ ビラ ロ ル ラ よふ
2 (ビラ) ロ ル ラ ビラ ロ ル ラ よふ

け の し り に き こ え る ビラ
け の し り に き こ え る ビラ

ロ ル ラ あ の う た は か あ
ロ ル ラ あ の う た は ち び

さ ん ど り の こ も り う た
つ こ ど り の あ さ の う た

<音符や休符について>

- ・八分休符がたくさんある (9名)
- ・四分休符が少ない (5名)
- ・八分音符が使われている (2名)
- ・ト音記号で書かれている (2名)
- ・レの音が多い (1名)
- ・ラの音が少ない (1名)

<構成や仕組みについて>

- ・くり返しがある (2名)
- ・プレスマークがある (2名)
- ・楽器が入る (2名)

<歌詞について>

- ・カタカナが使われている (2名)

また、技能面では、ドの音を与えての①ドレミファソラシドの歌唱、②ドミソミドの歌唱調査を行った。①では、音高を上げられてはいるものの音程はあいまいな児童がほとんどであった。②では、個人的に楽器や合唱を習っている児童は正しく歌えていたが、8割の児童が不安定な音程で歌っていた。

これらの実態から、研究主題である、「音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう」を目指す上で、本校においては音楽のよさや面白さに主体的に気付く力を身に付け、感性を働かせ、自分の思いや意図を表現する上で必要な技能を習得することが必要であると考えます。

4 研究仮説と実践方法

(1) 仮説について

【仮説1】

楽譜の示し方や使い方を工夫すれば、楽曲の特徴や仕組みに気付き、一人一人が音楽的な見方・考え方を働かせ、楽曲への思いや意図を持ちやすくなるだろう。

【仮説2】

音程感や和音感を身に付けられる活動を常時取り入れ、みんなと合わせる心地よさやハーモニーの美しさを感じ取れば、より美しい表現を求めようと主体的に音楽に関わることができるだろう。

(2) 具体的な実践方法

【仮説1】について

手立て	①旋律の流れやフレーズが分かりやすい楽譜の提示 ②歌や楽器を分けた楽譜の提示 ③歌詞のみの楽譜の提示
-----	--

<提示例>

① (教科書)

X国のおどりX

(提示したもの)

X国のおどりX

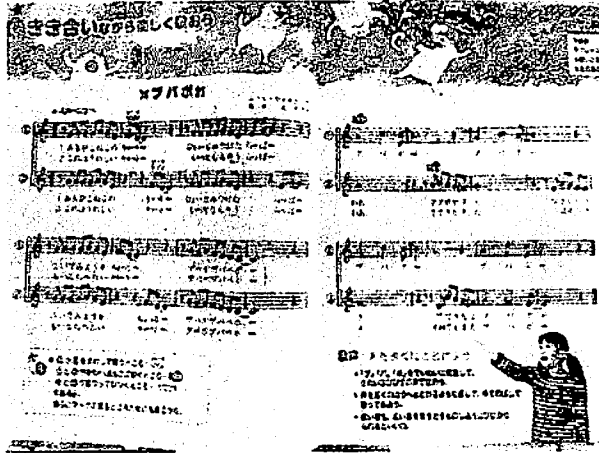
<X国のおどり> 4拍子 2/4拍子

しらしら

① ② (教科書)

(提示したもの)

③ (教科書)



(提示したもの)

「フバボ」

1 ある日こねこのキャット キャット
ひよいと見つけたらっば らっば
ぶいてみようがちよっと ちよっと
フバボフバボ

フバボ マグロやタイ
フバボ 次から次
フバボ 出てきたよフバボ

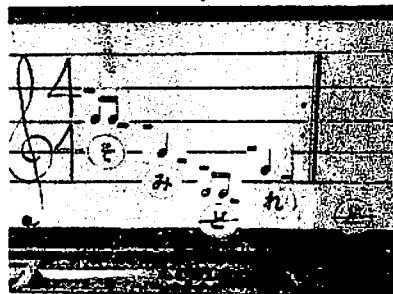
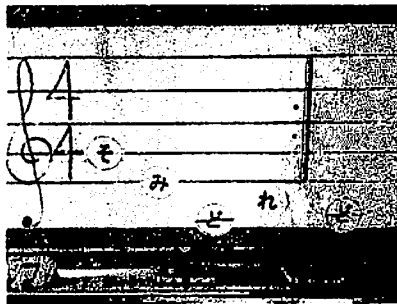
2 これはうれしいキャット キャット
もっと囃らそうらっば らっば
もっと食べたいキャット キャット
フバボフバボ

フバボ 出てきたきた
フバボ ソコギリサメ
フバボ それでもまだフバボ

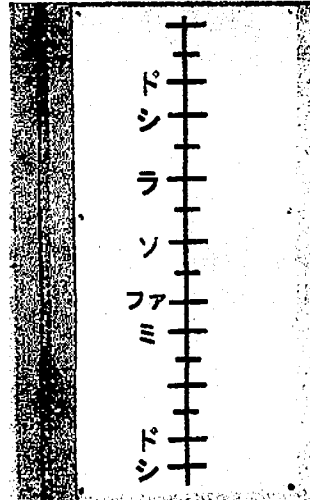
【仮説2】について

手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○音程感覚を身に付けるための学習 <ul style="list-style-type: none"> ①「ドレミソラ」5音を使った即興創作と歌唱 ②縦譜を使った音高の確認 ③ハンドサイン ○和音感覚を身に付けるための学習 <ul style="list-style-type: none"> ④身体を使った和音の歌唱 ○五線譜を読むための学習 <ul style="list-style-type: none"> ⑤指を五線に見立てた掲示物
-----	---

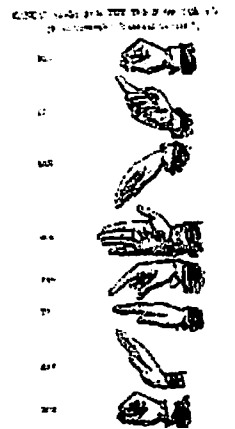
①



②



③

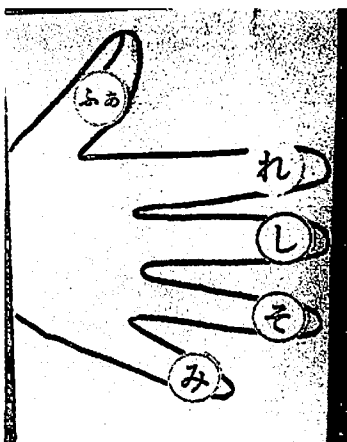


④



(ド) (ソ) (ミ) (ド)

⑤



5 検証

検証授業①

(吉岡小 第3学年2組 平成30年9月14日)

(1) 題材名 せんりつと音色 5時間扱い

教材名「ユモレスク」ドボルザーク作曲 (鑑賞)

「白鳥」サン・サーンス作曲 (鑑賞)

「森の子もり歌」蓬萊泰三作詞・菊地雅春作曲・佐伯孝一編曲 (歌唱)

(2) 題材の目標

- ・旋律の反復や変化をとらえたり，楽器の音色の美しさや特徴を味わって聴き取ったりする。
- ・旋律やフレーズの特徴をとらえて，曲想に合った歌い方を工夫する。

(3) 指導と評価の計画 (5時間扱い)

時間	◎ねらい ○学習内容・学習活動 [共通事項]	・教師の働きかけ
第一次	◎旋律の反復や変化をとらえたり，楽器の音色の美しさや特徴を味わって聴き取ったりする。	
	○「ユモレスク」を全曲通して聴き，曲の特徴をつかむ。 ・バイオリンの音色を聴き，その特徴について知る。 ・繰り返しの部分があることを確認する。 ○旋律に合わせてスキップをするなどし，旋律の動きをつかむ。 ・身体の動きと図形譜とを見合わせ，旋律の動きをつかむ。	・実物のバイオリンを提示し，音色を味わったり弾き方などを体験したりさせ，関心を高める。 ・図形譜と一緒にたどって確認しながら聴く。

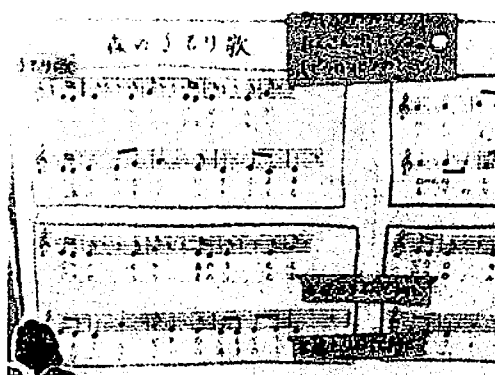
	<p>○聴き取ったことと曲想の変化とを関わらせて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図形譜や強弱、速度などと、曲想の変化との関わりをとらえていく。 ・ 曲想の変化を感じながら、全曲通して聴く。 <p>[音色、旋律、反復、変化]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成がすぐ分かるよう、色分けした模造紙を提示する。曲想の変化なども書き込み、視覚的に分かりやすくする。
<p>第2時</p>	<p>○「白鳥」の楽譜をながめ、楽曲の特徴を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はじめはピアノから始まる、ピアノは細かい音符が続いているなど、気づいたことを発表する。 <p>○全曲通して聴き、曲の特徴をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽譜から気付いたことを、聴いて確認する。 ・ チェロとピアノの音色の違いや曲全体の雰囲気について発表する。 <p>○チェロの音色を味わいながら、旋律の流れをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チェロの音色や特徴について知る。 ・ 旋律の流れを身体で表し、音の高低や滑らかな旋律の流れをつかむ。 <p>○「白鳥」のイメージと曲想とを関わらせながら全曲通して聴く。</p> <p>[音色、旋律、反復、変化]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拡大譜を提示し、気づいたことを自由に発言させ、児童の気付きを認める。 ・ 実物のチェロを提示し、音色を味わったり弾き方などを体験したりさせ、関心を高める。 ・ 白鳥の写真を提示し、イメージを描きやすくする。
<p>第二次</p>	<p>◎旋律や歌詞の特徴をとらえて、曲想に合った歌い方を工夫する。</p> <p>○「森の子もり歌」の範唱を聴き、旋律の流れをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音程やリズムに注意しながら歌う。 ・ 半分に分け、聴き合いながら歌う。 <p>○楽譜をながめ、楽曲の構成や仕組みについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4つのまとまりに分けられることを知り、どこで分けられるのか話し合う。 ・ 休符や音符、旋律の流れなど気付いたことを発表する。 <p>○気付いたことに気を付けながら、みんなで声を合わせて歌う。</p> <p>[旋律、フレーズ、反復、変化]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>音程が取れていない部分はハンドサインを使うなどして、正確に歌えるようにする。</u> ・ 児童が気付いたことをもとに、楽譜を見ながら歌っていく。 ・ 全員での歌声を録音しておく。

<p>第4時</p>	<p>○「森の子もり歌」の旋律の流れを確認し、歌う。 ○歌詞を読み、どんな様子なのか話し合う。 ・歌詞や挿絵から、森や鳥たちの様子について思い浮かべたことを発表する。 ・どんな風に歌いたいかな発表する。 ○グループに分かれ、楽譜の2段目までの曲想に合った歌い方を考える。 ・どんな風に歌いたいか話し合う。 ・そのためにどう工夫するか楽譜に書き込んでいく。 ・いくつかのグループが発表する。 [旋律, フレーズ, 反復, 変化]</p>	<p>・静かな中で歌詞を音読し、曲へのイメージを膨らませていけるようにする。 ・歌い方を試しながら楽譜に書き込んでいくようにする。</p>
<p>第5時(本時)</p>	<p>○「森の子もり歌」の様子や良さについて確認する。 ○グループに分かれ、曲想に合った歌い方を考える。 ・前時に考えた歌い方を試しながら考える。 ○楽譜2段目までをいくつかのグループが発表する。 ・他のグループの歌い方の工夫や曲想の変化を感じ取る。 ○全員で、工夫した歌い方で合わせて歌う。 ・はじめに歌った歌声と聴き比べ、変化を感じ取る。 ○これまでの学習を振り返る。 [旋律, フレーズ, 反復, 変化]</p>	<p>・児童が思い浮かべた絵や拡大譜を提示し、これまでの学習内容が想起できるようにする。 ・全員での歌声を録音しておき、第3時に録音したものと聴き比べる。</p>

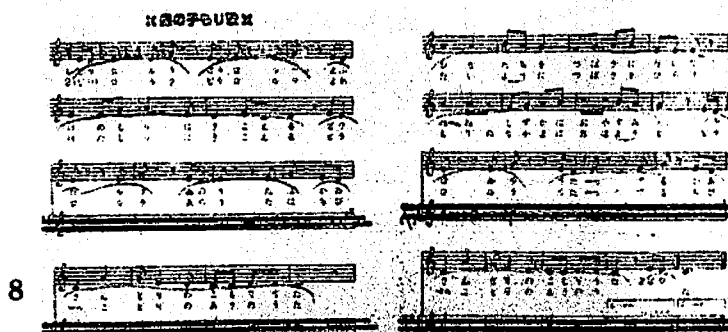
<成果>

【仮説1】について

- 「白鳥」のチェロとピアノの楽譜を提示することで、チェロが旋律、ピアノが伴奏の役割をしていること、チェロは滑らかな動き、ピアノは波のように細かい動きをしていることを視覚的に捉えることができた。
- 「森の子守歌」のリコーダーパートの楽譜を抜いて提示することで、旋律に集中して着目することができた。
- 「森の子守歌」をフレーズで区切って提示することで、児童は自然にフレーズ感をもって歌うことができた。学習後に行った事後調査では、約7割の児童がフレーズを捉えられていた。



(事後調査より)



【仮説2】について

- 「森の子守り歌」でハンドサインや階名唱で「ピラロ ルラ」の部分を確認することで、正しい音程を意識することができ、子どもたちの中にもすぐに定着した。

検証授業② (吉岡小 第3学年2組 平成30年12月5日)

- (1) 題材名 日本や世界の歌を聴いたり歌ったりして親しもう 8時間扱い
 教材名「キパーキ パパ」ケニアの歌 (鑑賞)
 「半月」韓国の歌 (鑑賞) 「熱い豆がゆ」イギリスの歌 (鑑賞)
 「十五夜さんのもちつき」日本のわらべうた (鑑賞)
 「陽気なかじや」中地雅之作詞, オーストリア・ドイツ民謡 (鑑賞)
 「雪のおどり」油井圭三作詞, チェコ/スロバキア民謡 (歌唱)
 「マンガニ, 雨とおどろう」坪能由紀子作詞・編曲, アフリカ南部
 地方曲 (歌唱)
- (2) 題材の目標
- ・様々な国の音楽の特徴を感じ取り, リズムや拍の流れに乗って歌ったり遊んだりして楽しむ。
 - ・声や楽器の重なりを楽しみながら歌ったり演奏したりする。
 - ・曲の特徴を捉え, 思いや意図をもって歌う。
- (3) 指導と評価の計画 (8時間扱い)

時間	◎ねらい ○学習内容・学習活動 [共通事項]	・教師の働きかけ
第1次	◎日本や諸外国の歌に親しみ, 拍の流れにのって歌ったり遊んだりして楽しむ。	
	○知っている日本の歌や外国の歌を発表する。 ○「十五夜さんのもちつき」と「キパーキ パパ」を聴き, 相違点を感じ取る。 ・どこの国の音楽か考えながら聴く。 ・共通点や相違点を話し合う。 ○「十五夜さんのもちつき」で手合わせをして遊ぶ。 ・一人で出来るようになったら, ペアでゆっくり手合わせする。 [拍の流れ]	・「うさぎ」や「もみじ」, 「キラキラ星」など児童がこれまで歌ったことのある歌を紹介する。 ・世界地図やその国の写真を提示し, イメージを持ちやすくする。 ・ゆっくり児童の様子を確認しながら進める。
	○「十五夜さんのもちつき」の手合わせをして遊ぶ。 ○「半月」「あつい豆がゆ」を聴き, それぞれの曲の共通点や違いを感じ取る。	・世界地図やその国の写真を提示し, イメージを持ちやすくする。

	第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの国について知り、共通点や相違点について話し合う。 ○「陽気なかじや」を歌いながら手合わせをして遊ぶ。 ・「陽気なかじや」で遊んでいる様子を映像で見て、外国で楽しんでいる子どもたちの様子をを知る。 ・1番を全員で歌う。 ・手合わせを練習し、歌いながら遊ぶ。 <p>[拍の流れ]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく手合わせできるよう、児童の様子を見ながら速度に留意する。
	◎様々な国の音楽の特徴を感じ取り、思いをもって歌ったり演奏したりする。		
	第3時	<p>仮①旋律・楽器</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「雪のおどり」の楽譜を見て、楽曲の特徴を話し合う。 ・歌詞のない楽譜を見て、どんなことを歌った歌なのか予想する。 ・リズムや音形の特徴について発表し、楽曲の構成をつかむ。 ・チェコ/スロバキアについて知り、国や曲の雰囲気をつかむ。 ○範唱を聴き、旋律を歌う。 ・半分に分かれて歌い、聴き合う。 <p>[リズム, 旋律, 拍の流れ]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1フレーズずつ区切った楽譜を使い、考えやすくする。 ・世界地図やその国の写真を提示し、イメージを持ちやすくする。 ・聴き合うことで、声を合わせて歌うことへの意識を高める。
第2次	第4時	<ul style="list-style-type: none"> ○「雪のおどり」の旋律を歌い、輪唱する。 ・半分に分かれて歌い、聴き合う。 ・2小節ずらした拡大譜を見ながら、ハーモニーの部分を意識しながら輪唱する。 ○「雪のおどり」をグループに分かれて歌う。 ・3~4人グループに分かれて聴き合いながら歌う。 ・2つのパートで輪唱する。 ○「雪のおどり」をどのように輪唱するか話し合う。 ・2つのグループが集まり、どのように重ねていくか楽譜に書き込む。 <p>[旋律, 音の重なり]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き合うことで、声を合わせて歌うことへの意識を高める。 ・拡大譜で視覚的にも分かるようにし、部分的に和音を確認しながら歌わせる。 ・少人数で歌うことで、自分たちの声を聴きやすくする。 ・声を合わせて歌えているグループを取り上げ、意識を高める。

第5時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○「雪のおどり」をグループ毎に声の重なりを確認しながら輪唱する。 ・各グループの抱いたイメージに合わせ、前時に考えた重ね方を歌いながら確認し、改善していく。 ○<u>グループ毎に輪唱し、聴き合う。</u> ○楽器の伴奏(教師が演奏)をつけて全員で輪唱する。 [音の重なり, 速度, 強弱] 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で歌い、自分たちの声が合っているか聴きながら練習する。 ・小さな輪で集まり、お互いの声を聴きながら輪唱できるようにする。 ・楽器が加わることで曲の雰囲気が変わることを味わいながら歌えるようにする。
第6時	<ul style="list-style-type: none"> ○「マンガニ、雨とおどろう」の特徴をつかむ。 ・楽譜を眺め、リズムや音高の同じところなど気づいたことを発表する。 ○アフリカ南部の国について知り、曲のイメージを広げる。 ・歌詞の意味や歌われる場面を知り、イメージを広げる。 ○範唱を聴き、旋律を歌う。 ・<u>全体を半分に分けて聴き合う。</u> [リズム, 旋律, 拍の流れ] 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムが同じところや繰り返されている言葉など曲の特徴を自分たちで見つけられるようにする。 ・世界地図や写真を提示し、イメージを持ちやすくする。 ・半分に分けて聴き合うことで、声を合わせて歌うことへの意識を高める。
第7時	<ul style="list-style-type: none"> ○「マンガニ、雨とおどろう」の旋律を歌う。 ・<u>全体を半分に分けて聴き合う。</u> ○2パートに分かれて歌う。 ・小音符の部分を歌い、旋律と合わせて歌う。 ○リズムを加えて歌う。 ・①と③のリズムを手で打つ。 ・歌と楽器の分担をする。 ・それぞれの分担で集まり練習する。 [リズム, 音の重なり] 	<ul style="list-style-type: none"> ・半分に分けて聴き合うことで、声を合わせて歌うことへの意識を高める。 ・①と③のリズムで打ちやすい方を選び、打ちながら歌う。難しい児童には、歌とリズム打ちのどちらかでよいことを伝える。 ・同じリズムを打つ仲間が集まって練習をし、合わせることを意識させる。
第8時	<ul style="list-style-type: none"> ○「マンガニ、雨とおどろう」を歌う。 ・数名に小音符の部分を任せ、旋律と合わせて歌う。 ○楽器と合わせて歌う。 ・楽器毎に集まり、リズムを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌と楽器のバランスを聴き、音量に気を付けさせる。

	○日本や諸外国の音楽を歌ったり演奏したりして感じたことを発表する。 〔リズム、音の重なり〕	・日本と諸外国の音楽の共通点や相違点を振り返り、感じたことを記録させる。
--	--	--------------------------------------

<成果>

【仮説1】について

- 「雪のおどり」の1フレーズずつ区切った楽譜を提示することで、フレーズ毎の相違点や旋律の流れを掴みやすくなった。
- 「雪のおどり」を2小節ずらした輪唱の楽譜を提示することで、「こんこん」「ずんずん」が交互に出てくることや、音の重なりを視覚的に確認することができた。

【仮説2】について

- 「雪のおどり」の「こんこん」の部分を、縦譜を使って音高を確認することで、音高の幅や違いを掴むことができた。

検証授業③ (吉岡小 第4学年2組 令和元年6月7日)

- (1) 題材名 聴き合いながら楽しく歌おう 4時間扱い
教材名「プパポ」 おうち・やすゆき 作詞/若松 正司 作曲(歌唱)
- (2) 題材の目標
 - ・正しい音程を意識して、旋律や声の重なりを聴き合いながら伸びやかに歌う。
 - ・曲の仕組みをとらえ、どのように歌いたいか思いや意図をもつ。
- (3) 指導と評価の計画(4時間扱い)

時間	◎ねらい ○学習内容・学習活動〔共通事項〕	・教師の働きかけ
	◎お互いの声を聴き合いながら歌おう	
第1時	○「プパポ」の楽譜から特徴を見つける。 ・ソプラノとアルトに分かれていることや呼びかけとこたえの形になっていることに気付く。 ○「プパポ」の旋律を歌う。 ・教師に続けて階名唱し、旋律を歌う。 ・前半部分の呼びかけとこたえの部分で歌う。 〔旋律、呼びかけとこたえ〕	仮①旋律 仮②縦譜 ・細かく区切りながら階名唱を進める。 ・前半部分の呼びかけとこたえは同じ音程であることを意識させながら歌わせる。

<p>第2時</p>	<p>○<u>友達の声</u>を聴きながらソプラノパートを歌う。 ・ペア、グループと人数を増やしなが、お互いの声を聴きながら旋律を歌う。 ○後半のアルトパートを歌う。 ・教師に続けて階名唱し、アルトパートを歌う。 ・<u>歌詞</u>をリズム読みする。 ・前半部分をソプラノと合わせて歌う。 [呼びかけとこたえ]</p>	<p>仮②縦譜 ・音が跳躍する部分は視覚的にも分かるように縦譜を使う。 ・ソプラノは教師1人から少しずつ増やしていく。</p>
<p>第3時 (本時)</p>	<p>○「<u>プパポ</u>」の世界について話し合う。 ・<u>歌詞</u>を読み、意味やどんな世界なのかを話し合う。 ○後半部分をどう歌いたい話し合う。 ・最後のハーモニーの部分をハミングで歌う。 ・ソプラノとアルトに分かれて、ハーモニーを聴きながら重ねて歌う。 [音の重なり]</p>	<p>仮①歌詞 ・「プパポ」は何を表しているのか、どんな音色なのかを考えさせる。 ・音程が不安定なときは、縦譜やハンドサインを使い階名唱で確認する。</p>
<p>第4時</p>	<p>○「<u>プパポ</u>」をどう歌いたい話し合う。 ・前半部分と後半部分、1番と2番とをどう歌いたいかを話し合う。 ○<u>2つのグループに分かれて聴き合う</u>。 ・それぞれの良かったところを伝え合う。 [呼びかけとこたえ、音の重なり]</p>	<p>仮②縦譜・サイン ・どう工夫して歌うか、話し合った内容を楽譜に書き込ませ可視化する。 ・表現の工夫が聴き手に伝わるようにするという意識させる。</p>

検証授業③ 教材名「プパポ」(中央小)

検証授業③ 教材名「プパポ」(大日小)

<成果>

【仮説1】について

- 「プパポ」の拡大楽譜を提示することで、旋律や音の重なり、曲の仕組みなどに気付くことができた。
- 「プパポ」の歌詞のみを提示することで、歌詞の内容を理解し「プパポ」の世界を膨らませ、こう表現したいという思いをもつことができた。

【仮説2】について

- 「プパポ」の音程を階名唱し、縦譜やハンドサインを使って音程を視覚的にも確認することで、正しい音程で歌えるようになってきた。

6 研究の成果と課題

仮説1について

【仮説1】

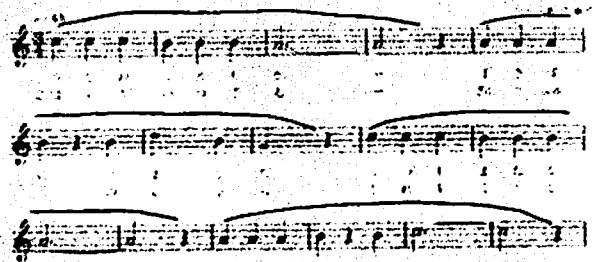
楽譜の示し方や用い方を工夫すれば、楽曲の特徴や仕組みに気付き、一人一人が音楽的な見方・考え方を働かせ、楽曲への思いや意図を持ちやすくなるだろう。

<成果>

- ・楽器のパートを省いた楽譜を用いることで、歌のパートに集中することができ、旋律の動きや曲の仕組みなどを子どもたちで見つけることができるようになった。
- ・歌詞のみが載った揭示物を用いることで、歌詞の内容や言葉のおもしろさ、リズムのよさなどに気付くことができるようになった。また、歌詞の内容から想像を膨らませ、こう表現したいという思いをもつことができた。

- ・フレーズで区切った楽譜を用いることで、自然とフレーズを感じ取ることが出来るようになった。そのため、フレーズや旋律の流れを意識して歌うことができた。また、約6割の児童が新曲の楽譜からフレーズを読み取ることができている。(右記 事後アンケート結果より)

×まきばのこうし×



○模範解答と同じ解答	7名
○模範解答とほぼ同じ解答	11名
△細かく分かれている	11名

- ・楽譜から楽曲のよさを見つけ、それらを表現につなげようという意識が高まった。(右記 事後アンケート結果より)

質問項目	結果	
○楽譜を見て、その曲のよいところを見つけようと思いますか。	はい	26名
	いいえ	3名
○歌う曲のよさがわかるように歌いたいと思いますか。	はい	28名
	いいえ	1名

- ・楽譜を見たときに、細かい音符などだけではなく音程や旋律の相違点、歌詞などに気付くことができるようになった。(以下 事後アンケート結果より)

×とんひ×

J. 68

<音符や休符について>

- ・四分休符がある (4名) ・複付点四分音符 (3名)
- ・プレスがある (6名) ・プレスが少ない (1名)

<音程やリズムについて>

- ・1段目と2段目の旋律がほぼ同じ (4名)
- ・1, 2, 4段目の1小節目の音程が同じ (1名)
- ・「ピンヨロー」の1回目と3回目, 2回目と4回目が同じ音程 (2名)
- ・「ピンヨロー」はリズムが同じ (2名)
- ・3段目だけ始まりの音がちがう (2名)
- ・クレッシェンドとデクレッシェンドがある (4名)

<歌詞について>

- ・1番と2番の歌詞が似ている (1名)
- ・「ピンヨロー」はとんびの鳴き声 (1名)

無回答 1名

<課題>

- ・既習の曲ではフレーズ感を自然と身に付けることができたが、新曲の楽譜からも自力でフレーズを読み取ることができるようにしたい。
- ・楽譜から楽曲の特徴や仕組みを見つける力については個人差が大きいので、みんなでつける経験を積み重ね、個々の力を伸ばしていきたい。
- ・児童が個んだ音楽的な見方や考え方を、表現に生かしていく力を確実にしたい。

仮説2について

【仮説2】

音程感や和音感を身に付けられる活動を常時取り入れ、みんなと合わせる心地よさやハーモニーの美しさを感じ取れば、より美しい表現を求めようとして主体的に音楽に関わることができるだろう。

<成果>

- ・常時活動を毎時取り入れることで、音高感覚が身につき、正しい音程感や和音感への意識が高まった。特にハンドサインや縦譜の活用は効果的であった。
- ・歌声を聴き合う経験を積み重ねることで、歌声がそろっている感覚や、正しい音程やハーモニーの美しさの判断が少しずつできるようになってきた。

- ・みんなと合わせる心地よさやハーモニーの美しさを感じ取る体験を積むことで、仲間や相手の歌声を聴くことへの意識が高まり、美しい音楽を作り出そうという意欲が高まった。(右記 事後アンケート結果より)

質問項目	結果
○歌うとき、正しい音で歌おうとしていますか。	はい 29名 いいえ 0名
○歌うとき、ほかの人の歌声をきいて歌おうとしていますか。	はい 27名 いいえ 2名
○歌うとき、みんなと声を合わせようとしていますか。	はい 27名 いいえ 2名

<課題>

- ・ハーモニーの美しさの判断は、見本を聴かせて感覚を身に付けていく経験をさせていく必要がある。
- ・音程感覚は身につけてきているが、音域により音色が変わってしまい美しいハーモニーをなかなか作り出すことができなかった。そこへの気づきが子どもたちの中にできてきたので、音色を工夫する指導を行っていききたい。
- ・子どもたちが身に付けた音程感や和音感を次に生かせるよう、系統性をもって指導を行っていききたい。

- 1年「ドレミのうた」
- ↓
- 2年「かえるのがっしょう」
- ↓
- 3年「キラキラおひさま」
- ↓
- 4年「プパポ」「もみじ」
- ↓
- 5年「ハローシャイニングブルー」
- ↓
- 6年「明日を信じて」



資料編

音楽科事前アンケート

3年 組 名前 ()

<音楽への意識>

1. 歌うことは好きですか。 (はい ・ いいえ)
2. 楽器をえんそうすることは好きですか。 (はい ・ いいえ)
3. 音楽をきくことは好きですか。 (はい ・ いいえ)
4. 友だちといっしょにうたったり、えんそうしたりすることは好きですか。
(はい ・ いいえ)
5. 友だちといっしょに話し合うことは好きですか。
(はい ・ いいえ)

<音高について>

6. 抜けているところにドレミ・・・を入れましょう。

ソ ラ シ () レ ミ () ソ

7. 下のがくふのおんぷのドレミ・・・を書きましょう。



8. 下のがくふで音が高い方のおんぷに○をつけましょう。



<旋律について>

9. 下のがくふを見て、気づいたことを自由に書きましょう。

※森の子もり歌※

蓬萊泰三 作詞
菊地雅春 作曲
佐伯孝一 編曲

♩=88 ぐい

1 ピラ ロ ル ラ ピラ ロ ル ラ よふ
2 (ピラ) ロ ル ラ ピラ ロ ル ラ よあ

け の も り に き こ え る ピラ
け の も り に き こ え る ピラ

ロ ル ラ あの う た は か あ
ロ ル ラ あの う た は ち び

さ ん ど り の こ も り う た
つ こ ど り の あ さ の う た

34

実技調査

- ・リズム打ち
- ・階名唱 (①ドレミファソラシド ②ドミソミド)

音楽科事後アンケート

4年 組 名前 ()

<音楽への意識>

1. 歌うとき、正しい音でいで歌おうとしていますか。 (はい ・ いいえ)
2. 歌うとき、ほかの人の歌声をきいて歌おうとしていますか。
(はい ・ いいえ)
3. 歌うとき、みんなと声を合わせようとしていますか。 (はい ・ いいえ)
4. 楽ふを見て、その曲のよいところを見つけようと思いませんか。
(はい ・ いいえ)
5. 歌う曲のよさがわかるように歌いたいと思いませんか。
(はい ・ いいえ)

<音高について>

6. 抜けているところにドレミ・・・を入れましょう。

ソ	()	シ	()	レ	ミ	()	ソ
---	-----	---	-----	---	---	-----	---

7. 下のがくふのおんぷのドレミ・・・を書きましょう。



A musical staff in 2/4 time with a treble clef. The notes are: quarter note G4, quarter note A4, quarter note B4, quarter note C5, quarter rest, quarter note B4, quarter note A4, quarter note G4, quarter note F4, quarter note E4, quarter note D4, quarter note C4. There are two rests above the staff: a dotted line above the first two notes, and a dotted line above the last four notes. Below the staff, there are two empty parentheses: () under the first two notes, and () under the last two notes.

8. 下のがくふで1番音が高いおんぷに 1つ○をつけましょう。



A musical staff in 2/4 time with a treble clef. The notes are: quarter note G4, quarter note A4, quarter note B4, quarter note C5, quarter note B4, quarter note A4, quarter note G4.

<フレーズについて>

9. 下の歌は、どこからどこまでひといきに歌いたいですか。線でつなぎましょう。

※まきばの こうし※

小林純一 作詞
川口 晃 作曲☆

♩=48 ぐらい

1 う しの こども が ー ま き ば
2 ぼ く が い つ て も ー ぎ ゅ う に ゆ

に い ま し た ら つ の も ま だ な し
う の む か ら そ れ を こ う し

い ー こ ど も の う し が ー
が ー し っ て い る か ら ー

<楽譜について>

10. 下のがくふを見て、気づいたことをがくふに自由に書きこみましょう。

※とんび※

葛原しげる 作詞
染田 良 作曲☆

♩=88 ぐらい

1 と べとーべー とん び そ ら たーかー く
2 と ぶとーぶー とん び そ ら たーかー く

な けなーけー とん び あ おぞーらー に }
な くなーくー とん び あ おぞーらー に }

ピン ヨロー ピン ヨロー ピン ヨロー ピン ヨロー

た のしーげー に わ をがーいー て

(♩.. ♩♩ ⇒ ♩♩♩♩)

実技調査

- ・リズム打ち
- ・階名唱 (①ドレミファソラシド ②ドミソミド)

「プパポ」指導案 大日小（佐藤先生）

5 本時の指導（3 / 4）

（1）目標

- ・音の重なりよさを見つけ、自分たちの「プパポ」を歌おう。

（2）展開

過程	時配	○主な学習内容 ・学習活動 「発問」 『予想される児童の様子』	・教師のはたらきかけ ◇評価 【評価方法】	〔共通事項〕 の扱い
めあてをもつ	5	○学習の雰囲気をつくる。 ・「ドソミド遊び」を歌う。 ・「ドミソでハンドサイン」を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく歌う雰囲気をつくる。 ・身体を使いながら音の幅を意識させる。 ・二つのグループに分け、音の重なりを意識させる。 ・ハンドサインを使いながら音の重なりを意識させる。 	音の重なり
	10	○前時の復習をする。 ・1パートを歌う。（1番） ・2パートを歌う。（2番） 『2パートの最後の音がみんな で合わなかった』 『タイミングがずれてしまった』 ○本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムや音程に気をつけながら歌わせる。 	旋律
学習を深める	10	○グループで練習をする。 ・「プパポ」をどう歌いたいかグループで確認する。 ・互いの声を聞き合いながら歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの楽譜を基に、思いや意図をグループの中で共有させる。 ・グループ同士離れた場所で輪になって歌わせる。 ◇（技-②）【グループでの話し合い・演奏の様子】 	呼びかけと答え 音の重なり

音の重なりよさを見つけ、自分たちの「プパポ」を歌おう。

振り返る	10	<p>○音の重なるの確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1パートと2パートに分けて音程の確認をする。 ・ハーモニー検定を行う。(2グループ) ・全員で音の重なりをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦譜を使いながら階名唱で音の幅を確認させる。 ・ハンドサインを使いながら視覚的に音の移り変わりを確認させる。 ・音の重なりができている児童に発表させ、心地よい重なりを聴かせる。 ・声質も意識させながら音の重なりを意識し、歌わせる。
	10	<p>○中間発表をする。(2グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが「プパポ」をどう歌いたいか、説明する。 ・グループで歌う。 <p>○全員で合わせて歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いのパートを聴きあい、工夫したことを生かしながら二部合唱にするよう指示する。

(3) 板書計画

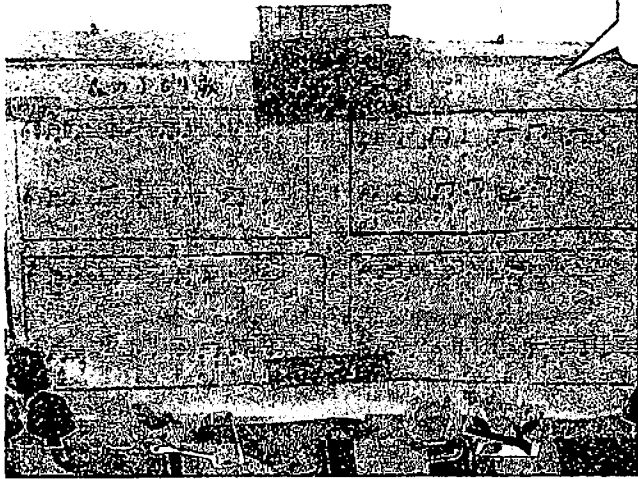
プパポ

音の重なるの良さを見つけ、自分たちの「プパポ」を歌おう。

「プパポ」の拡大楽譜

1. 「ドミソド重ね」「ドミソでハンドサイン」
2. 前時の復習
3. グループで合わせて練習する
4. ハーモニー検定 (最後のプパポ)
5. 中間発表
6. 全員で歌う

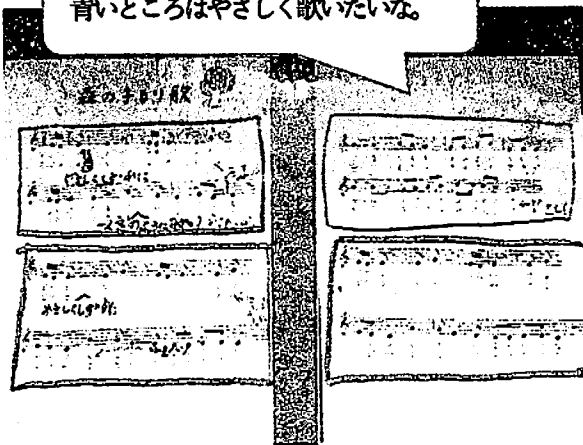
「森の子もり歌」授業資料



フレーズや楽器を省いた楽譜で、曲の作りを見てみよう。



青いところはやさしく歌いたいな。



1番と2番で歌い方を変えようよ。



学習後のフレーズチェックでは、フレーズ感が身についていることが分かりました。

× 森の子もり歌 ×

1 (ビラ) ロ ム ラ ビラ ロ ム ラ ヨ
2 (ビラ) ロ ム ラ ビラ ロ ム ラ ヨ

け の も り に き こ え る ビラ
の も り に き こ え る

ロ ム ラ あ の う た は か あ
ロ ム ラ あ の う た は ら び

さん どり の こ も り う た
さん どり の あ さ の う た

ひ な た ち を つ ば さ に だ い て
た い じ ゅ う に つ ば さ を ひ ら げ

ね ん ね し す か に お や す み じ
も り の な か ま に お は と う と

ロ ム ラ う た ー つ ー か か あ
ロ ム ラ う た ー つ ー ら び

さん どり の こ も り う た 2 (ビラ) た
さん どり の あ さ の う た

○フレーズ (ひと息に歌いたい部分) を線でつなぎましょう。

※森の子もり歌※

蓬萊泰三 作詞
菊地雅春 作曲
佐伯孝一 編曲

♩=88 <50い

1 ビラ ロ ル ラ ビラ ロ ル ラ よふ
2 (ビラ) ロ ル ラ ビラ ロ ル ラ よあ

け の も り に き こ え る ビラ
け の も り に き こ え る ビラ

8
ロ ル ラ あ の う た は か あ
ロ ル ラ あ の う た は ち び

楽き (楽き)

さ ん ど り の こ も り う た
っ こ ど り の あ さ の う た

楽き (楽き)

ひ な た ち を つ ば さ に だ い て
た い よ う に つ ば さ を ひ ろ げ

ね-んね し ず か に お や す み と ビラ
も り の な か ま に お は よ う と ビラ

ロ ル ラ う た っ て る か あ
ロ ル ラ う た っ て る ち び

楽き (楽き)

1. (1回め) 2. (2回め)
(くりかえす)

さ ん ど り の こ も り う た 2 ビラ
っ こ ど り の あ さ の う た

1. (1回め) 2. (2回め)
(くりかえす)

楽き (楽き)

「雪のおどり」授業資料

※雪のおどり※

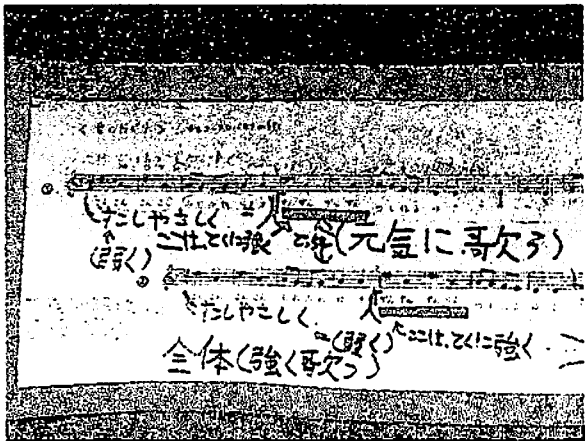
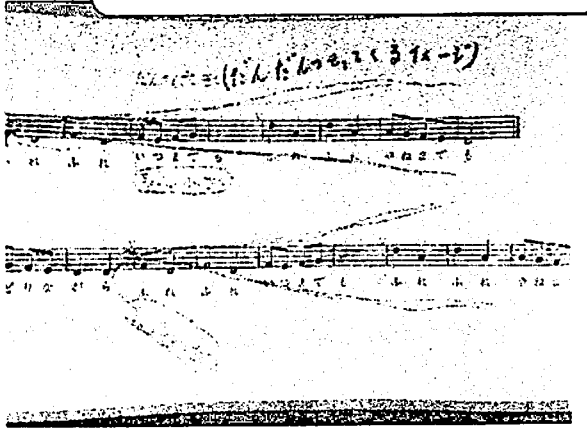
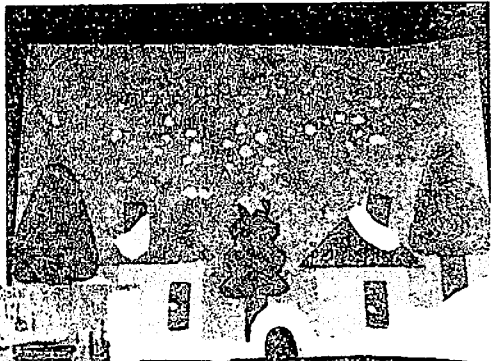


フレーズに合わせた楽譜で、曲のつくりを見てみよう。



どういふ風に重ねて歌おうか。

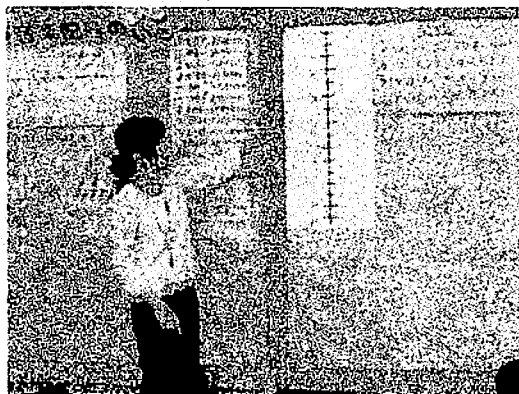
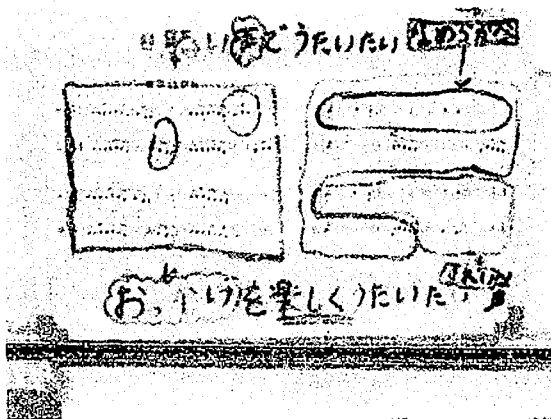
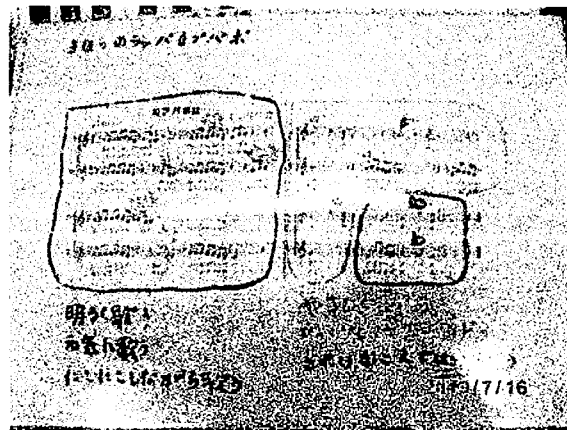
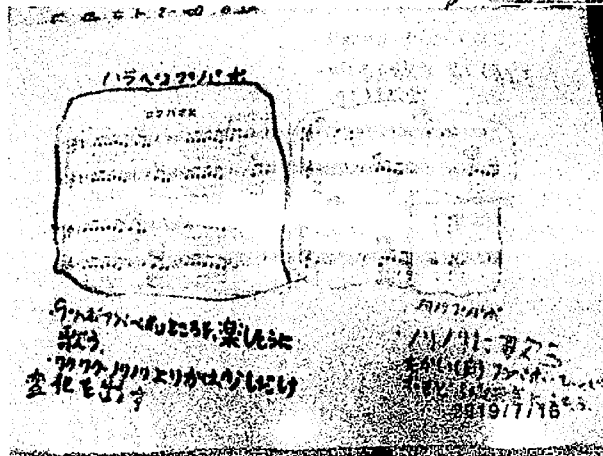
どんどん雪が積もってくる感じにしたいよ。

「雪のおどり」のイメージを絵にし
て、発表しよう。

「プパポ」授業資料

3つの部分をどういう風に歌おう。



紙譜やハンドサイン
で音程を確認して…

工夫したことが転わるかな。

